

コウノトリと共に生きる 豊岡の挑戦



キーワード

地方創生、官民連携、森林・里山活用、水辺の保全・再生、環境配慮型農業、食、ブランド化、観光、健康・美容

フィールド

近畿地方
(兵庫県) ・ **里**

実施体制

地方公共団体（豊岡市、兵庫県）、生産者、JAたじま、流通・小売業者、NPO、旅行者



アクションの目的

持続的にコウノトリ野生復帰の取組を進めるために、環境と経済が共鳴する関係を構築すること。

アクションの背景

1971年、日本国内の野生コウノトリが絶滅。最後まで生息していた豊岡市において、1965年から人工飼育が始められ、1989年に繁殖が成功し、以後、毎年ヒナが誕生。飼育数が100羽を超えると、野生復帰に向け、野外でのコウノトリの餌場を確保するため、環境創造型農業や湿地の保全・再生・創造が不可欠であった。

アクションの内容

【「コウノトリ育む農法」で育むお米・ブランド化】

「コウノトリ育む農法」とは、農薬や化学肥料に頼らず、生きものの生息しやすい水田づくりを行う農法で、安全安心でおいしいお米と多様な生きものを育み、コウノトリも住める豊かな文化、地域、環境づくりを目指している。豊岡市は「コウノトリ育む」を商標登録し、兵庫県や農家、JAたじま等と連携し、ブランド化を図っている。

【JAや小売り・流通業者との連携による販売促進】

JA等と連携して量販店店頭での販売促進に取り組んでいる。また、量販店とも連携して消費者を産地へ招待し、現地で商品の特徴を解説することにも取り組んでいる。

【旅行者との連携によるエコツーリズム】

JTBと連携し、訪問者のニーズに対応し、コウノトリの生息地保全作業を含めたエコツーリズム商品を企画・販売している。

アクションのポイント

- ◎環境を良くすることで経済を活性化し、これが誘因となって環境を良くする行動が拡大。
- ◎多様な主体との連携による様々な効果の創出。
(お米のブランド化・地域のファンづくり・エコツーリズムによる観光)
- ◎市長による全国各地でのトップセールス。

アクションの効果と今後の展開

- コウノトリ育むお米の売上高は試験放鳥から10年間で2,200万円から3億5,000万円に増加。
更なる消費拡大を目指し、海外への輸出にチャレンジ。
- 市立コウノトリ文化館の来場者数は放鳥前の12万人から約30万人に増加。
- 城崎温泉を中心に豊岡市全体で外国人宿泊客数が急増。
引き続きコウノトリ野生復帰の取組を世界に紹介していく。

兵庫県豊岡市 コウノトリ共生部コウノトリ共生課 〒 668 - 8666 兵庫県豊岡市中央町2番4号

○ TEL / 0796-21-9017 ○ FAX / 0796-24-7801 ○ E-Mail / kounotorikyousei@city.toyooka.lg.jp

○ web / <http://www.city.toyooka.lg.jp>